

2024年度 二松学舎大学文学部シンポジウム

東アジアの文化と漢学

——「中国学」／「日本学」という方法——

主旨

中国文学科は、2025年度より、名称を「国際日本・中国学」科に変更することになった。これは、「中国文学」科のこれまでの教学の伝統と成果を継承しつつも、対外的にその教学内容を更に分かりやすく提示することを現実的な目的とするものである。中国文学科は、「中国文学」を掲げつつも、その内実は日本漢学を含み、また中国古典の読解には中国語だけではなく、訓読を重視してきた。訓読のスキルは日本特有の文化であり、古典学において独自の価値をもつ。また、日本の古典はいわゆる漢文化を抜きにはその本質に迫れない。その意味で、日本文化の中に根付く漢文化を、国際日本学という視点から新しく提示することには大きな意味があるであろう。また同時に、中国古典を古典として、また中国の多様な文化を中国学として理解し教授することは、本学科の長い伝統に支えられた重要な使命であると考える。

中国学は、本学にとっても日本の文化にとっても重要な学問分野である。ただ、硬質な古典学は、なかなか理解に難い。現代的ニーズに合わせた形で、しかし同時に、より分かりやすい名称で、新たに学科の将来を切り開くために、この名称変更に合わせて、「国際日本学」にふさわしいテーマを掲げて文学部シンポジウムを開催したいと考える。

具体的には、日本の古典文学を、中国古典に対する深い造詣に基づいて追求され、またそれを魅力的に発信し続けてこられた中西進先生に、『万葉集』の謎に迫っていた（講演）。

また、実際に「国際日本学」を専門的方法論として成果を上げておられる南開大学の劉雨珍先生、本学中国文学科で、日本漢学を担当されている町泉寿郎先生、そして現代の日中文化を新しい方向から発信しておられる楊先生に、それぞれのご研究を紹介して頂く予定である（報告）。

合わせて、「国際日本学」という視点、方法、対象などに付き、開かれた議論ができればと考える。

二松学舎大学文学部中国文学科は、
2025年度「国際日本・中国学科」に名称変更します。